

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-131	15-119	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Alcohol use, smoking and their co-occurrence during pregnancy among Canadian women, 2003 to 2011/12. 2003年から2011/2012年のカナダ人女性における妊娠中のアルコール、喫煙習慣		
執筆者		
Lange S, Probst C, Quere M, Rehm J, Popova S.		
掲載誌		
Addict Behav. 2015 Nov;50:102-9. doi: 10.1016/j.addbeh.2015.06.018.		
キーワード		PMID
アルコール、カナダ地域健康調査、妊娠、喫煙		26117214
要 旨		
<p>目的：妊娠中のアルコール摂取と喫煙、両者の使用が相乗的に胎児へ悪影響を及ぼすことはこれまでに証明されている。本研究では、2003年から2011/2012年におけるカナダ州別の1) 妊娠中喫煙率、2) 喫煙率の経時的変化、3) 妊娠中の喫煙状況が差次的にアルコール摂取と関連するかどうか、4) 妊娠中のアルコール摂取と喫煙単独あるいは両者存在を予測する危険因子を調査することを目的とした。</p> <p>方法：カナダ地域健康調査の5期間(2003、2005、2007/8、2009/10、2011/12)を用いて、二次的データ解析を行った。妊娠中喫煙率と95%信頼区間を年次毎に州別で算出し、喫煙率の経時的変化は尤度比検定を用い検討した。喫煙率と飲酒率の相関は準ポアソン回帰分析を用い、妊娠中の喫煙単独・飲酒単独・喫煙飲酒両者を予測する危険因子を評価するために多項ロジスティック回帰分析を使用した。</p> <p>結果：2003年から2011/12年のカナダでの妊娠中の加重統合喫煙率は14.3%(95%信頼区間：13.6-15.0%)であった。年齢・家計収入・人種・調査周期で調整し、妊娠中のアルコール摂取リスクを検討すると、非喫煙妊婦と比較し、毎日喫煙、機会喫煙、喫煙歴あり(妊娠中は禁煙)ではそれぞれ2.54(95%信頼区間：2.11-3.06 p<0.0001)・2.71(95%信頼区間：2.25-3.27 p<0.0001)・2.09(95%信頼区間：1.85-2.37 p<0.0001)倍高かった。妊娠中の喫煙単独・飲酒単独・喫煙飲酒両者の予測危険因子はそれぞれ異なった。</p> <p>結論：妊娠の有無にかかわらず、喫煙そのものがその量に関わらず、妊娠中のアルコール摂取リスクを増加させることが示された。妊娠中の女性および妊娠可能年齢の女性の喫煙状況を把握することは、妊娠中のアルコール摂取リスクを知るために有用なスクリーニングになり得る可能性が示唆された。</p>		